



子どもたちの人権感覚を育てるとは

12月10日は「世界人権デー」。1948年12月10日国際連合の総会で「世界人権宣言」が採択され、この日を「世界人権デー」と決めました。日本もこれを受けて、毎年12月10日の「世界人権デー」を最終日とする1週間(12月4日～10日)を「人権週間」と定め、人権尊重のための啓発活動を全国的に展開しています。

さて、人権週間にちなんで、「人権感覚を育てる」ことについて考えてみましょう。

人権感覚を育てるということは、「目に見える行為の陰には、どんな気持ちがあるのだろうか」ということを考え、「目に見えない思いに気づく心を育てること」ではないかと思います。

2つの話を紹介します。一つ目は、アメリカの有名な大統領ワシントンの少年のころのエピソードです。

桜の木を切った話で分かるように、ワシントンは相当ないたずら坊主だったようです。

困ったお父さんは、ワシントン呼んで、「これからおまえが悪いことをしたら、このキッチンの柱にクギを一本打ち込む。その代わり、いいことをしたら、一本抜く」と言いました。こうすればいたずらが減ると思ったのでしょう。しかし、なかなかいたずらはやまず、柱はクギだらけになりました。

やがてワシントンも考えるようになって、優しい心を見せたり人を助けたりするようになります。そのたびにお父さんは黙ってクギを抜きました。減ったり増えたりが続いて、ある日、とうとうクギは一本もなくなりました。

お父さんはワシントン呼んで、柱をなでさせ「おまえは本当にいい子になった。ごらん。クギはもう一本もない」。ワシントンもニコニコしました。「だけどね」とお父さん。「クギは一本もなくなったけど、このクギの穴は残っているんだ。神様でなければ、この穴を元通りにすることはできないんだよ」

(いくら謝ってもいくら良いことを重ねても一度傷つけた相手の心は傷ついたままなんだ。だから決して人を傷つけていけない。ということだったのです)

ワシントンはそれから一生涯、抜けばいいのではない、クギを打ち込んではいけないという考えを心に持っていたと言います。

もう一つは、岐阜県環境生活部人権施策推進課の「ちょっといい話」より「家族の温かみ」と題した高校生の作文です。

中学2年生の時の冬、私はささいな事で親とけんかをしました。家にいるのが嫌になり、家出をしてしまいました。そのことに気付いた兄は自転車で私を探し回ったそうです。兄に発見され、木枯らし吹きすさぶ寒い中、一緒に帰りました。

家に着いたら、私の大好物のオムライスをお母さんが作ってくれていました。そのオムライスを食べた時、私は涙がこぼれました。家族の温かさを感じたからです。

いつか必ず家族にこのご恩を返したいです。

このように大人からの言葉かけや行動は、自分の存在をどのように思っているのかを感じとらせる力があります。日々の小さな言葉や行動の積み重ねが、子どもたちに人権感覚を育てることにつながるのではないのでしょうか。

我々大人は、将来子どもたちが、お互いを尊重し合う明るい社会を築くことができるよう、同じ気持ちを持って、「見える言葉や行動」で、子どもたち一人一人に「みえない心」を育てたいものです。

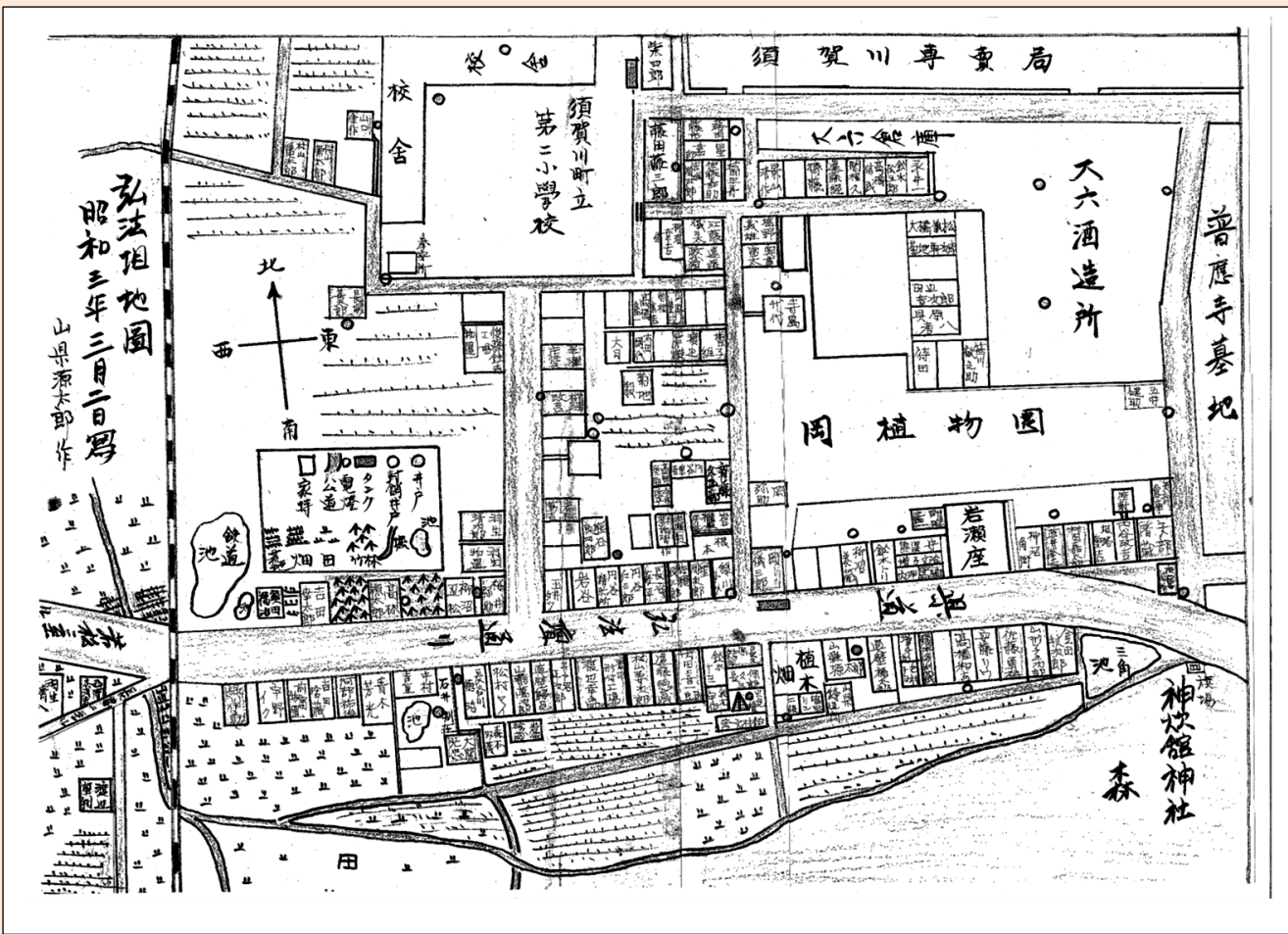
昭和3年今から88年前の弘法坦周辺の様子を知る！

弘法坦在住の伊藤克一様（本校PTA顧問）が一枚の地図を見せてくれました。この地図は、昭和3年3月2日今から88年前に山縣源太郎氏によって描かれた弘法坦地区の地図です。須二小があり、周辺には植物園、専売局（現在のJT）、酒造所があったのが分かります。岩瀬座という劇場・芝居小屋がありました。

東西に県道が横切っており、長沼、勢至堂を通って会津若松に行く会津街道であったそうです。当時、弘法坦・諏訪町・宮先町は須賀川市の中心（起点）だったといえます。

地図をよく見ると共同井戸（○印）がいたるところにあるのが分かります。当時の弘法坦の水はとてもおいしかったそうです。そのため酒造所も多くあったといえます。

学校の歴史を知るうえでも昭和初期の貴重な資料となりました。



4年生 2分の1成人式を実施

2日（金）4年生64名と保護者らが参加して2分の1成人式を行いました。開会式では児童代表の須田琴菜さんと武藤光輝君が「10年目という節目に未来に向けて第一歩を踏み出し、自分にしか出来ないこと、教えていただいたことを一つ一つの宝にしたいと思います。誰かを支える人になります」とあいさつしました。第1部では幼少期の自分のスライド写真を映し出しながら、未来の自分は「プロ野球の選手」「保育士」になりますと夢を力強く発表しました。

第2部では、総合的な学習の時間で学んできたことを生かし、手話と合唱で「世界が一つになるまで」を披露。子どもから保護者へ、保護者から子どもに手紙を読みあげ手紙を交換しました。最後に保護者代表の村上幸栄さんがあいさつし、「home」「どんなくも」を合唱し、節目を祝う温かい気持ちが広がる思い出の式となりました。

